

学位論文の要旨 (論文の内容の要旨)
Summary of the Dissertation (Summary of Dissertation Contents)

論 文 題 目
Dissertation title

女性村落保健ボランティアの活動に関する考察
カトマンズ郊外農村地域の事例

広島大学大学院国際協力研究科
Graduate School for International Development and Cooperation,
Hiroshima University
博士課程後期 教育文化専攻
Doctoral Program Division of Educational Development and
Cultural and Regional Studies
学生番号 D071470
Student ID No.
氏 名 藤村 昭子
Name Seal

論文の要旨

第1章 女性とリプロダクション

第1節 問題の背景

女性は長い間、リプロダクションの問題で苦しんできた。それを解決するために「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」という概念が生成し、第4回国際人口・開発会議で定義された。理想的な定義であるが実現するには抜本的な政策が必要だった。

2000年に、国際社会はミレニアム開発目標として8つの目標を立て、2015年までに達成すると約束した。この目標が達成されればリプロダクティブ・ヘルス/ライツも改善されると期待された。

ところが、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの改善に最も関係の深い目標4、「5歳未満児の死亡率の削減」と、目標5、「妊産婦の健康の改善」は達成が危ぶまれている。

一方で、後発開発途上国に分類され、2011年の国民一人当たりのGNIが540ドルしかないネパールが、目標4と5を達成または達成の軌道に乗せたとして、2009年と2010年の2度にわたって国連から表彰された。

ネパール政府、国際機関、国際NGOの要人たちはネパールのこの達成は「女性村落保健ボランティア (FCHV)」の活動の成果だという。

第2節 FCHVについての先行研究と問題の所在と研究方法

先行研究において「コミュニティー・ヘルス・ボランティアにはどんなモチベーションが適切か」「FCHVがいかにエンパワーされたか」「FCHVはサービス提供者としての能力はある」の3点が明らかにされた。しかしいくつかの問題点が残る。

研究の目的

本研究の目的はネパールがMDGの目標4「乳幼児死亡率の削減」と5「妊産婦の健康の改善」を達成する過程において、「女性村落保健ボランティア (FCHV)」が、自分自身もエンパワーされつつ、かつ、他の女性たちをエンパワーしていくプロセスを事例地調査に基づいて明らかにすることである。

エンパワーメントと言う語は社会福祉、発展途上国開発、医療・看護、教育、ビジネスなどの領域で使われている。黒人、女性、移民、障害者などの制度化された政治的・経済的過程に参加できず、人間開発の過程から排除されて不利な立場にある人々が、知識や技術を得

て周囲の状況を変え、自らの要求を主張する力を持つようになることである。

事例地の設定と研究の方法

一般住民からの聞き取り、観察の対象とする事例地をA, B, Cの3地区とした。A地区はラリトプール郡チャンピVDCワード3と8。B地区はチャンピVDCワード7。C地区はカトマンズ郡チャパリVDCワード8の一部である。

FCHVについての調査の対象者はチャンピVDC担当の9人とチャパリVDC担当の16人とした。

一般住民からの聞き取りの対象者と内容

既婚女性からの聞き取り、学歴、結婚、妊娠、出産、育児、避妊、家族、仕事、地域活動、その他について。中年男性からの聞き取り、望ましい妻のあり方について。50歳以上の男性からの聞き取り、地域の開発・インフラの整備の歴史について。FEDOの加入者からの聞き取り、加入の経過、活動の内容、差別の実態などについて。マイクロファイナンスの指導者からの聞き取り、参加人数、掛け金、利子、その他について。

FCHVについての調査の対象者

チャンピVDC担当の9人とチャパリVDC担当の16人とする。

聞き取り調査、仕事の内容、担当家族数その他について。グループ討論、待遇その他について。参与観察、ビタミンA配布時に行う。仕事の記録つけることを依頼する。

第2章 FCHVとネパール女性の現状

第1節 アルマアタからFCHVへ

1978年アルマ・アタに、世界140カ国以上の代表が集まり「2000年までにすべての人に健康を」というスローガンを達成するためには、プライマリー・ヘルス・ケア（PHC）がカギとなるとしてPHCの理念を盛り込んだ、「アルマ・アタ宣言」を発表した。各国政府は「住民参加」を得る一策として「地域保健ボランティア制度」を設けた。ネパールは「女性村落保健ボランティア（FCHV）」制度を設けた。

第2節 ネパール女性の置かれている状況

貧困による重労働と栄養不良に苦しんでいる。無権利状態に置かれている。

第3章 事例地の調査で得たデータ

第1節 事例地の経済・社会状況

A地区はB, C地区に比較して開発がかなりおくれている。

第2節 女性の家庭内の地位と社会参加と妊娠出産

女性の地位は低い、家事や農業の負担は女性に重くのしかかっている。FEDOの支部がチャンピ村ワード8のダリット部落にできた。10年ぐらい前から各地区にマイクロファイナンスのグループができた。

307名の既婚女性からの聞き取りによると5歳未満児の死亡率は削減され妊婦の健康は改善された。

第3節 事例地のFCHV

FCHV25名の平均年齢は40.8歳、在任年数の平均は11.7年、担当家族数の平均は164.3家族、担当妊婦数の平均8.4人である。

この制度創設当初の困難

仕事はまったく理解されなかった。舅や姑は嫁に向かっては、「入院の必要ない」と言うから入院出産を勧めるのは難しかった。

第4章 考察 事例地において5歳未満児の死亡率は削減され妊婦の健康が改善され、FCHV制度が成功した要因およびFCHVと他の女性のエンパワーメント

第1節 事例地の既婚女性からの聞き取りに見る5歳未満児の死亡率と妊産婦の健康の改善

の要因

事例地における5歳未満児死亡率の削減は地理的要因、経済的要因が大きく影響している。B, C地区では順調に削減されるがA地区では30歳代の女性の段階で増加してしまった。事例地における妊産婦の健康の改善を表す指標として、病院出産率と平均妊娠回数を用いる。入院出産率と夫が定職についている割合は大きく関係がある。入院出産は、主として、経済的にそれが可能であればすすむということである。FCHVはA地区では入院出産が本格的に始まるきっかけを作り、B, C地区では入院反対の舅・姑を説得した。

第2節 MDG4,5を達成する上でFCHVが果たした役割、FCHV制度の成功要因と

FCHVとその他の女性のエンパワーメント

MDG4,5の達成する上でFCHVが果たした役割

- ①避妊を普及させた
- ②産前・産後指導と新生児ケア指導をした。
- ③経口補水液による下痢の治療をした。
- ④肺炎の症状を見分け、肺炎とわかると病院に行かせた。
- ⑤5歳未満の子どもにビタミンA、ポリオワクチンを配布し予防接種に協力した。

FCHV制度の成功の要因

- ①カバー率が高い。
- ②地域出身者である。
- ③政府によるインセンティブの供与。
- ④FCHVたちが社会的尊厳を得た。
- ⑤ネパール社会の変化。

第5章 結論

FCHVのエンパワーメントの観点から見ると、上記、成功の要因の④)「のFCHVたちが社会的尊厳を得た」ことが重要である。FCHVは自分が治療した人が元気になって感謝され、周りの人もほめてくれるときにやりがいを感じるといっている。平凡な農家の主婦が、自分の行った治療行為のためにお礼を言われ、周りからほめられるという「社会的認知」を得たのである。次には、自分は農業と家事以外には何もできないと思っていたのに病気の治療ができることに驚くと共に自信を得た。子どもの下痢を治療でき、肺炎がチェックできるときにやりがいを感じると述べている。さらに、自分を頼りにしている人がいることで使命感を持った。豚の飼育をしている谷に住んでいる女性たちは、FCHVが「明日は予防接種がありますよ。」と該当世帯に触れてまわることに感謝している。つまり豚小屋の周りに住んでいるような自分たちをそんなにまで尊重してくれることへの感謝である。したがってFCHVとしては自分に感謝し、頼りにしている(妊娠や育児についてこの地域の女性は全員FCHVに相談している。)女性がいることで自分の使命を感じているのである。

社会的認知と、自信と、使命感でFCHVは社会的尊厳のある存在となった。これはまさに大きなエンパワーメントである。

このFCHVの治療行為を一般女性が評価すると同時に自分も学ぼうとするようになった。FCHVとしての仕事の記録には単なる薬の投与でなく、「下痢止めの作り方を教える。」「風邪・熱の家庭療法を教える。」「(怪我の)手当ての仕方を教える。」という記録が出てくる。つまり、一般女性もFCHVに影響されて学び始めたのである。女性の集まりがあると「子どもの病気の予防」といったようなテーマでFCHVが招かれて話しをするのも、一般女性の「学ぼう」という意欲があるからである。

結論として言えることは「FCHVはネパールのMDG4と5の達成に貢献するプロセスで社会的に尊厳のある存在となり、大きくエンパワーされた。一般女性も自らも学ぼうとす

る意欲を持つようになり、大きくエンパワーされた。」と言うことである。

備考 論文の要旨はA4判用紙を使用し、4,000字以内とする。ただし、英文の場合は1,500語以内とする。

Remark: The summary of the dissertation should be written on A4-size pages and should not exceed 4,000 Japanese characters. When written in English, it should not exceed 1,500 words.